

(短報)Lundin Energy、世界初の認証済みカーボンニュートラルオイルを販売

1. 2021年4月26日、独立系企業 Lundin Energy は、イタリア石油精製企業 Saras に世界初の認証済みカーボンニュートラルオイルを販売したと発表した。
2. カーボンニュートラル LNG は、取引実績がすでに世界でいくつか見られるが、カーボンニュートラルオイルは例が少なく、2021年1月に、米国・Occidental がカーボンニュートラルオイルを世界で初めて販売したと発表し話題になった。なお、カーボンニュートラルオイルは、第三者によるカーボンオフセット認証を得ていないものも含まれている。
3. カーボンニュートラルオイル・LNG は、新しい商品であるため市場での決まったルールはなく、当事者間の契約に基づいて取引がなされている状況である。よって、カーボンニュートラルの明確な定義はなく、また第三者による認証の義務もない。今後、カーボンニュートラルオイル・LNG の需要が増えるのか、どのような規制・商慣習ができていくのか注視される。

1. 取引の概要

2021年4月26日、スウェーデンに上場する独立系企業 Lundin Energy は、イタリア企業 Saras に世界初の認証済みカーボンニュートラルオイルを販売したと発表した¹。販売されたカーボンニュートラルオイルは、イタリア・サルデーニャの Sarroch にある Saras の製油所に運ばれた。

Lundin Energy は、同社がオペレーターを務めるノルウェー領北海の Edvard Grieg 油田から生産した、60万バレルの原油を販売したとしている。この原油の販売にあたり、Lundin Energy は 2,302トンの CO₂ を自然ベースの方法(森林吸収など)でオフセットし、認証企業 Intertek²によるカーボンオフセット認証を得た。

カーボンニュートラルオイルについては、2021年1月、米国の独立系企業 Occidental は、インド企業

¹ Lundin Energy プレスリリース、2021年4月26日：

<https://www.lundin-energy.com/worlds-first-certified-carbon-neutrally-produced-oil-sold/>

² Intertek とは、英国に本社を置く認証企業である。1885年に船の貨物の審査・認証を行って以来、ISO からカーボンオフセットまで幅広い認証業務をグローバルに展開している。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)石油調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

Reliance Industries³に世界初のカーボンニュートラルオイルを販売したと発表した⁴。米国・パーミアン盆地で生産された200万バレルの原油のライフサイクル全体で生じる温室効果ガス(GHG)について、国連の国際民間航空機関の国際民間航空のためのカーボンオフセットおよび削減スキーム(CORSIA)の適格基準を満たす Verra Verified Carbon Standard に基づいて検証されたさまざまなプロジェクトから調達されたと発表はしているが、第三者によるカーボンオフセット認証は得ていなかった。

(参考)Lundin Energy の取り組み

Lundin Energy は、2021年1月、2025年にオペレーションにおける排出量を実質ゼロ(ネットゼロ)にする目標を掲げている。同社はプラットフォームの電化とプラットフォームでの再生可能エネルギー電力の使用を進めることにより、プロジェクトでの排出量削減に取り組んでいる。具体的な取り組みについては、石油・天然ガス資源情報⁵を参考にされたい。

図:Edward Grieg 油田と認証マーク



(Lundin Energy より引用)

³ Reliance Industries とは、インド・ムンバイに本社を置く上場企業で、石油化学を中心に幅広いエネルギー事業を手掛けるコングロマリットである。「2035年までにネットゼロ」の目標を掲げている。

⁴ Oxy Low Carbon Ventures プレスリリース、2021年1月28日：

<https://www.oxylowcarbon.com/news/worlds-first-shipment-of-carbon-neutral-oil>

⁵ 欧州の独立系およびPE系E&P企業におけるエネルギートランジション関連事例、2021年3月17日、

https://oilgas-info.jogmec.go.jp/info_reports/1008924/1008983.html

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)石油調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

2. カーボンニュートラル LNG・オイルについて

脱炭素化の動きを受けて、2019年に初めてカーボンニュートラルLNGが取引された。カーボンニュートラルLNGとは、LNGからの炭素排出量を同量のカーボンクレジットで相殺することで、排出量を実質ゼロにしたものである。LNGの取引量全体と比較すると量は少ないものの、年々取引量が増えてきている⁶。そして今年、原油市場においてカーボンニュートラルオイルが登場した。

カーボンニュートラル LNG・オイルは、オフセットのために追加の費用や投資を伴うが、これまでの事業活動を継続することが可能であるため、GHG削減に取り組む国・企業の注目を集めている。しかしながら、取引が始まったばかりであり、取引事例によって詳細は異なっている。

<現段階で明確になっていない点>

1. カーボンニュートラルの定義(対象となる排出量の範囲)は決まっていない。バリューチェーン全体(Scope 1~3)の排出量をオフセットしている事例もあれば、バリューチェーンの一部のみオフセットした場合でもカーボンニュートラルを称している事例もある。
2. 削減対象がCO₂のみのもものとGHG(メタンも含む)を指すものと両方の事例がある。
3. オフセットの基準や計算方法は複数あり、統一した基準はない。
4. 市場の取引における規則はない。
5. 第三者による認証の義務はない。

今後、カーボンニュートラルの石油・天然ガスの需要が増えるのか、それに向けてどのように規制や認証制度が国際的に整備されていくのかが注視される。

おわりに

カーボンニュートラル LNG・オイルは、カーボンオフセットのための追加費用・投資を要するが、将来、炭素税、国境炭素調整、排出権取引などの影響でカーボンニュートラル LNG・オイルの需要が拡大する可能性がある。カーボンニュートラルオイル・LNGの需要が拡大した場合、生産現場での温暖化ガス排出削減への取り組みの強化など、様々な影響が探鉱・開発に及ぼされるであろうが、基本的にはオフセットのための追加コストが少なく済む、排出量の低い油ガス田の競争力が高まるだろう。

以上

⁶ 天然ガス・LNG 最新動向 ―新たな脱炭素処方箋：欧州メタン戦略とカーボンニュートラル LNG、効能と副作用―、2021年4月13日：https://oilgas-info.jogmec.go.jp/info_reports/1008924/1009009.html

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)石油調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。